各地本だより

埼玉地本

埼玉地本は来る6月9日、さいたま市にあります「ときわ会館」にて第41回定期大会を開催いたします。本大会は中間大会ということで基本昨年の運動方針の強化という形になるとは思いますが、政権をとり戻した自民党がデフレ脱却を目標に行っているアベノミクスと呼ばれる政策で、わたしたち労働者の生活も激変する事が予想されます。成長戦略ではTPPをはじめとする数々の規制緩和が行われようとしていますが、小泉政権時の規制緩和でわれわれが受けた大打撃は記憶に新しいところであり、しっかり先を見据えた議論が必要な大会になるのではと思っております。

昨年度を振り返りますと、基盤強化に取り組んだ主要の生コン分野では、需要を満たせない日が数多く出るなど好調だったこともあり、若い年代の新規組合員を多数加入させる事ができたことは良い結果となりましたが、熊谷支部の主要分野であった清掃部門が縮小となったこともあり、毎年重要課題としている異業種獲得に向けた取り組みを更に強化し、職種・組織拡大にあたっていかなければならないと考えております。

労供概況は、新年度から閉鎖された工場がでるなど埼玉でも生コン工場の統廃合が行われております。年々協約締結事業所も減少しつつありますが、需要は年度末に比べますと一服した感はあるものの、日によっては供給が追い付かない事もある為、引き続き新規組合員の確保に努力しなくてはと思っております。

梅雨入りの声も聞かれる時期となりましたが、日頃の体調管理には十分に留意し無事故で就労にあたりましょう。

委員長　折井洋之

二〇一三年三月二十四日
第四十一回定期大会に関する告示
新産別運転者労働組合埼玉地方本部
執行委員長　折井　洋之

組合規約第十六条に基づき新産別運転者労働組合埼玉地方本部の第四十一回定期大会を次の通り開催する。

記

一、日時
2013年6月9日（日）午後12時半　集合
午後1時　開会
一、会場　ときわ会館　中ホール
埼玉県さいたま市浦和区常盤6・6・21
電話番号　048（822）4411
一、大会の構成　役員ならびに大会代議員
一、議事
1、2012年度経過報告及び会計報告
2、2013年度運動方針（案）及び予算（案）
3、その他

以上

関西地本

大阪駅周辺再開発で最後の施設であるグランフロント大阪が4月26日にオープンした。新しいモン好きな関西人とは言え、来場者数は1ヶ月で760万人に上り連日活況を呈している。

また、大阪中心部と隣接する地域には久しく遠のいていた外国人観光客の姿が多く見られ賑わいを見せ始めている。アベノミクス効果による円安需要によるものだが、近畿圏において大阪でも産業、業種別での、その恩恵差は大きく、一部の富裕層に限定されており、我われ庶民が実感できるのは何時になることやら待ち遠しいこの頃である。

梅雨入りの声が各地から聞こえてくる時季だが、関西地本では生コン関連が主体という事もあり、天候に左右され需要の減少が予想されているだけに、日々の労供に悩まされる状況がまだまだ続くと思うと、新たな事業所の開拓が急がれる。

さて、関西地本の概況ですが、新規事業所での就労効果が表れ、直近での雇保受給資格者数が若干改善され各担当支部長はほっと一息である。

しかし、瞬間的需要過多時には対応困難になる一面を抱えており、未供給を防ぐ絶対数維持の観点から優秀な運転技能を有する組合員の確保が喫緊の重要課題として継続している。

今後は、先を見据えた魅力在る組合の再構築と組織拡大を実現するための運動展開が急がれるが、六月に開催される新運転全国大会では、組織体制と労供の在り方や組織拡大等、各地本の実情も踏まえた実現可能な議論や意見交換が出来る大会になることを期待している。最後に運動半ばにして病に斃れ、ご逝去された菊地東京地本副委員長を悼み、関西地本一同謹んでお悔やみとご冥福を祈る次第である。

書記長　井口隆志

滋賀地本

地球温暖化が加速されていると言われていますが、やはり例年通りまもなく梅雨前線が活動を開始し、我々にとっては非常に嫌な梅雨の季節がやってきそうです。

さて、滋賀地本は入梅前に第8回の研修会を土佐の高知（四国）で開きました。往路は明石海峡大橋から淡路島を経由して鳴門大橋と2本の海峡つり橋を渡り、渦潮を鳴門大橋下の遊歩道から見ることに。強風の吹く中を展望室まで300メートル以上を歩き、渦潮を真上から見る事が出来ました。

そして「大歩危小歩危（おおぼけこぼけ）」の渓谷美を見ながら日本三奇橋の一つ祖谷（いや）の「かずら橋」を観光しホテルに到着。早速、執行委員会を開いた後、研修会に移り太田中央書記長から現在直面している労供労組関係の法律問題や今後の課題などについてレクチャーを受けました。そして執行委員から健康保険・雇用保険印紙貼付に関する疑問や専任運転者に関する行政への取組み方法など活発な議論となりました。

最後に全国大会に向けて制に埋めることの出来ない大きな穴が開いた感じです。

実際、他の労供組合員ですが、作業員の労災死亡事故、免停中就労での人身事故が供給先の清掃事業所で相次ぎました。また我が組合では、タブレットに対して労働局から「職安法44条違反」というピンポケ指導が出されたり、組合を脱退したネット情報の関係者が、厚生年金適用を求めた件で、個人の労働契約と組合の供給契約の根本的な違いを無視して年金適用を認めた行政に対して、法的な判断を裁判所に求めることを検討しています。そのネット情報で誹謗中傷を受けた菊地さんの弔い合戦と「労供事業法」制定に弾みをつけるためにも頑張って行くつもりです。

書記長　太田武二

東京地本

今年の春、例年よりも早い桜の開花宣言に合わせたかのように菊地副委員長が一ヶ月の予定で検査入院。満開の直前、お見舞いに行った時は普段染めていたという髪の白さが目立つたぐらいで例の江戸弁調の饒舌さに安心して戻ったものでした。菊地さんとは不思議な縁で、同じ年生まれ、同じ日に東京地本加入、17年後の大会に揃って代議員、私は執行委員、彼は評議員に。2003年からは専従役員同士だったのです。

彼の突然の訃報は、東京地本と同時に私個人の生活全体をも揺るがす大激震でした。当時は深い溜息しか出ない時期が続きました。東京地本の諸活動や役員体の意見交換となりましたが時間不足で、夕食を挟んで深夜まで和気藹々の議論が続きました。翌日は全員元気で朝食をとり、予定通り9時に出発し「桂浜」の坂本竜馬に挨拶。その後「瀬戸大橋」を経由して岡山県へ。「倉敷の美観地区」では古き良き時代の歴史に触れながら散策し一路帰途となりました。今回の研修会は労供活動の現在抱える問題・課題を取り上げ、各自が具体的な対策と行動計画を提案していくと言う研修会としたが、労働法・職安法・貨物運送法など様々な法律知識を必要であると言う事を実感しつつ次回の研修会に繋がる良い研修会となりました。

書記長　田中　浩

労供労組協で「労供事業法要綱案」の検討開始！

去る5月24日の労供労組協4役会議で、副議長の太田書記長から出された労供事業法の要綱案が初めて検討された。まず前文として「現在多くの問題を抱えながら拡大の一途を辿っている外部労働市場における事業者と労働者の需給調整事業において、職業安定法で規定された『職業安定機関以外の者の行う職業紹介事業等』の中では、労働組合による無料の労働者供給事業（以下、労供事業）が労働者と事業者双方にとっての最良のものであることは明らかである。」と法律の必要性の確信から始まり、職安法で同じく禁止の例外として制定された派遣法の問題点を指摘した上で、「労働組合による労供事業が労働基準法や社会労働保険などの一般法との関係で問題が生じてきたことも事実である。それだけに困難を極める労働現場の解決に向けて今こそ外部労働市場における労働組合の主導権を確立するために労働組合による労供事業法の制定が求められている。ここに職安法の第4条8項でいう『労供事業者』であると同時に第45条で規定され『労働組合等が、厚生労働大臣の許可を受けた場合は、無料の労供事業を行うことができる。」という二面性をもつ労供事業について職安法の第47条の現行規程を『労働組合による労供事業に関し必要な事項は、労供事業法の定めるところによる。』と改定した上でこの法律を制定し、戦後の大失業混乱期に公共職業安定所と共に二本柱として規定された労働組合による労供事業の拡充を期すものとする。」とまとめてある。

そして、「目的」以下の諸々の条文案について当日は、十分な検討時間がなく次回以降に持ち越しとなった。そして、今年の秋の学習会で法学、経済学などの研究者も交えて要綱案を仕上げることになった。

隠居の海外旅行

～どこか懐かしい国・台湾～（その二）

河合　明博（元新産別委員長）

△ガイドも日本贔屓▽

両親が現在千葉に住み、本人も日本で学校に通ったという45歳、独身のガイド、李さん（男性）は、日本の様々な分野に精通している。私以上にわが国の歴史に詳しく、明治以降の現代史にかかわっても、次々と人名が出てくる。近代史の授業を受けているかと錯覚するぐらいである。孫文、児玉源太郎、後藤新平、蔣介石、李登輝、山本五十六……。彼の説明を中心に、印象に残ったことなどを記すと……

◎台湾人は見栄っ張りである

車は、無理をしてでもトヨタならレクサス、ホンダならアコードを買い、若者にはマツダが人気だという。ドイツ車ならBMW、ベンツを買う、といった具合。7割が日本車、3割がドイツ車という。戦前の三大財閥の名残か、三菱が意外に健闘しているように見受けた。スクーターの80％はヤマハ、それも1000cc以上が主。軽自動車は台湾に全く根付かなかったという。小さい車といって笑われるのだそうだ。

軽自動車とともに全く根付かなかったのが自動販売機だという。見栄っ張りとは関係なさそうだが、対面販売の人間味を好むのだろう。

◎コンビニがバス停より多い。

セブンイレブンを筆頭に、ファミリー・マート（全家）などコンビニが至る所にあり、全国で1万店を越すという。日本の商品も結構並んでいる。大都市だけではなく地方にも有り、有り難かった。ローソンは無い。

◎檳榔娘

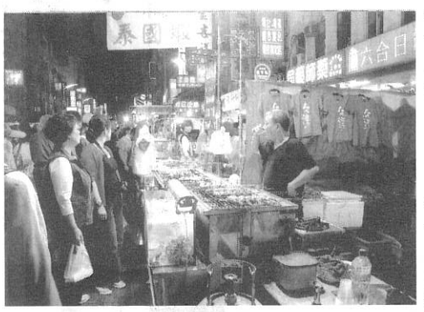
コンビニとは関係がないが、「檳榔」を売る店が道路沿いにやたら目につく。間口は一間もなく、多くは若い娘さんが店番をしており、時に足をスリットからちらつかせて運転手を誘う。檳榔は椰子科の木の実で、覚醒作用と習慣性がある。味は、正露丸を噛んだように苦いそうだが、運転手に好まれる所以だ。

◎カラスがいない

確かにほとんど見掛けなかった。餌を絶つ作戦が成功しているということで、町のゴミ収集は、1日3回、9時、17時、22時に行われるという。都会で清掃する人の姿を見掛けることも多かった。ゴミ一つ無いと言ってもオーバーではない。

◎徴兵制

徴兵制があり、16歳からは海外旅行・留学も禁じられているという。空・海は3年。陸軍は2年。したがって結婚は一般的に28歳以降になるとか。徴兵制は御免だが、日本と違って若者が礼儀正しいことと無関係で無いように思う。



◎日本で活躍する（した）台湾人

ジュディ・オング　テレサ・テン　オーヤンフィフィ　蓮彷と枚挙に暇がない。

◎現地に残る日本の地名

戦前、日本人が拓き、自分達の故郷の地名を付けたのがそのまま残っている。松山、富岡、鶴岡、岡山等々・・・。近々、台北市内の松山空港と愛媛県の松山空港との間に、同じ名前の誼で、定期便が就航するそうだ。かつて日本一と言われた新高山（3952m）は、「玉山」に戻り、1000円札の裏面を飾っている。